



株式会社エフエム・
ソリューション
代表取締役社長

武佐 隆夫

FMの源流に思いをはせて

それは、いまから41年前（昭和41年・1966）のことです。電々公社（現NTT）の専用回線を使い、オンラインシステムを稼働させた先進的な企業があります。年商でいえば、わずか120億円規模の会社でしたが…。

コンピュータを利用し事務処理を行うのは、金融機関や証券会社などごく一部の時代でした。この2年前、国鉄（現JR）が乗車券の発券システムをオンライン化し「みどりの窓口」を開設、利便性は格段に増しました。

前述の企業とは、私がながく勤めた（株）岡村製作所のことです。

当時の、最新のIBM製汎用機・1440を採用し、大きな注目を浴びました。システム化には、レンタル代と回線料で年間1億7千万円、総売上の1.4%におよぶ大きな維持管理費が発生します。それでも、導入を決めたといいます。

システムを活用するには、業務の見直しや標準化の推進も欠かせません。運営管理と業務改善を目的に「標準業務部」という組織を発足させます。私は2年後の1968年（昭和43年）、新入社員としてこの部門に配属されました。

●コンピュータを祭る計算センター。

私たちが「計算センター」と称した建物は、セキュリティが厳しく、分厚いコンクリート壁で出来ており、最新の空調機械や電源装置、高床式OAフロアなどを完備していました。

そこには、日本初のカラーデスクやカラーチェアも並んでいました。机といえば、木製かグレーのスチール製という時代です。完全武装のマシンルームに鎮座する主（ぬし）を、博物館の国宝とみまがうように扱い、空調・電源の保全は主要な業務でした。たびたび起るマシンや回線のトラブルに、担当者の苦労は絶えません。いま考えると、FMの源流にいたようです。

この6年後（1974）、オカムラでは全社オンラインシステムが完成します。1978年（昭和53年）、IBM3033に切り替わると、社内連絡に電子メールが導入され、私の「メール文化」はここから始まりました。その処理能力といえ、12メガバイト程度のもの。ごく単純に比べて、最近のパソコンは当時の計算センター100ヶ所分を優に超えております。

この環境を、いまや、主婦・子供たちでさえ自由に使いこなします。コンピュータは無論のこと、携帯電話や無線LAN、ブロードバンドなど、情報技術の驚くべき進歩に目をみはります。わずか40年あまりのことでした。

「情報化の進展」は、オフィスのハード、ソフト、サービスに大きな影響を与えました。オフィス家具の分野でもデスクシステムや椅子の開発、配線

処理など取り上げたらきりがありません。

その昔、専用のOAコーナーを設ける時代がありました。パソコン作業の疲れを癒す目的で、リフレッシュエリアの設置を薦めたところ、贅沢な設計だと即座に却下されました。いまではあたり前のしつらえですが...

●FMの原体験から出会いへ。

1986年、建設省（現国土交通省）主導の「インテリジェント・ビル研究委員会」のワーキングチームで、FMという言葉に出会いました。このあと、ニューオフィス推進協議会（NOPA）では、FMの啓蒙普及に携わります。

1991年7月、出向先のNOPAから帰任し、FMは時代の要請である、と事業化を進めました。翌年7月、エフエム・ソリューションの前進、ライフスケープ研究所の設立に参画しますが、その動きは少々早過ぎたようです。

私はFMと赤い糸で結ばれていたのでしょうか。いま再び関わっています。FMに接して20年あまり、出会いに感謝し、学習する日々がつづきます。

●時代の進歩に光と影も。

先述のごとく、情報系のハード環境は飛躍的に進歩しました。ところが、職場や家庭のコミュニケーションではどうでしょう。直接的な会話はむしろ減っています。デジタル化の浸透で、人間力や創造力は弱まったともいわれ、アナログ文化の重要性を再認識する企業がふえています。

「オフィスの生産性」を考えると、ホワイトカラーのモチベーションは大きなテーマです。オフィス環境はそれを支える重要な要素である、との仮説をもとに、調査・研究を4年にわたり続けております。

その結果、組織に関わる要因として「コミュニケーションと信頼関係」そして「組織の柔軟性」の2つが抽出されました。個人では「ひとの革新性」と「組織に対するコミットメント」があげられます。

コミュニケーションを活性化し、ワークスタイルの変革や能力開発制度を採用、合わせてビジネスプロセスも改革する。これらの施策とオフィス環境とに整合性があるこそ、その効果は生まれる、との確証を得ました。

ワークスタイルの多様化はますます進むでしょう。オフィスの有り方に関する研究が各分野で始まり、私どもにも大きな励みとなっております。

これからの経営に、地球環境や人の問題が欠かせない時代を迎えました。JFMAの活動に、新しい1ページが加わりますようご期待致しております。末筆となりましたが、2008年の皆様のご発展を心からご祈念申し上げます。